



『 すい臓がんの早期発見は可能？ 』

健康診断を毎年受けていてもすい臓がんの早期発見は、いまだ難しいのが現状です。

近年は、すい臓がんで亡くなる著名人も多く、臓器別死亡数も第4位と増えています。

すい臓がんは、発見した時点で手術ができないほど進行している人が80%（鹿児島県内）、5年生存率は約7%、ちなみに早期大腸がんの5年生存率が90%以上ですので、本当に恐ろしいがんであることがわかると思います。

ではどうしたら早期発見が可能でしょうか？

すい臓がんになりやすい人は、以下の危険因子が挙げられます。糖尿病がある、親兄弟や祖父母にすい臓がん罹患した方がいる、膵のう胞、膵炎と言われたことがある、生活習慣（飲酒、喫煙）など。

当院では危険因子がある方に腹部エコーやMRI、超音波内視鏡などの検査を受診することをお勧めし、早期発見に取り組んでいます。

また危険因子がなくてもすい臓が気になる人は是非ご相談ください。



鹿児島厚生連病院
副院長・消化器内科部統括部長

徳重 浩一